

人種差別をなくすためには

福島県立あさか開成高等学校 3年 湯田 真乃香

私は昨年、福島県白河市にある「アウシュヴィッツ平和博物館」を訪れました。そこは昔、ドイツが建設したアウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所、及びナチス政権時代の資料を展示している場所です。私達は昨年ここで「SHIROCK」という劇を上演しました。この作品は、シェイクスピアの「ヴェニスの商人」を、原作とは逆に悪役のユダヤ人側の視点で描いた劇です。この作品を制作するにあたって、私達は何度もこの博物館を訪れ当時の人種差別について学びました。館内にはアウシュヴィッツ収容所に関する資料の他にも当時の物なども実際に展示されていました。例えば、人間（アウシュヴィッツ収容所に収容されたユダヤ人）の髪の毛で作られたバッグ、虐殺されてしまった人の油でできた石鹸など今では想像もできないような物が展示されていました。これを通じて私は、人間はどこまでも残虐になることが出来てしまうのだと凄まじい恐怖を覚えました。人種や民族が違うだけで差別され、簡単に殺されてしまう。どうしてこのような事が起きてしまうのでしょうか。またなぜ差別はなくなるのでしょうか。

ナチスのヒトラーがユダヤ人を収容所に入れ、重労働を課し、抹殺したのは、ユダヤ人が自分達より能力の高い人たちが多かったからです。そしてその人たちを蔑むことに、自分達の連帯意識を高めたり、優越感を満足させたりするのです。皆さんは自分より勉強ができたり、スポーツができていたりする人を羨ましいなと思ったことがありますか。私は何度もあります。この感情は特別なことはありません。普通の事だと思います。この感情が度を過ぎてしまうと差別につながってしまうのではないかと私は思います。つまり、差別の原因は自分の心の中にたくさんあるのです。

「人間扱いする側とされる側？その差は一体どこから生まれるのかな？」「わしはユダヤ人だから赤い血が流れていないとでも？家族や友人を思う気持ちがないとでも？ありません。わしもあなた方と同じようにね。」

これは劇の主人公シャイロックのセリフです。このセリフは今を生きている私にも強く響きました。差別する側とされる側の間には何もありません。ただ同じ人間というだけです。それにも関わらず差別が起きてしまう。それは個人が個人の個性を受け入れることができていないからだだと思います。この劇もキリスト教側がユダヤ教を受け入れないことから差別が始まります。これは今の私達にも関係があります。例えばこんな経験はありませんか？第一印象がとても怖い人でも話してみるととても優しくて頼りになる人だったり、静かな人だと思ったらとても明るい人だったりすることがあると思います。でももしこの人と話す機会がなかったらずっとあなたの中では怖い人や静かな人のままです。このように人は接触しないとその人のことはわかりません。自分の中だけでその人の人格を決めつけることは偏見につながります。そして偏見は差別に繋がります。そのために私達は偏見や既成概念に縛られない想像力を育むことが大切なのだと思います。

自分の個性を大切にし、他人の個性を受け入れる。このことができれば世界はもっと明るくなると思います。世界を変えることは私からすれば大きく難しいことだと思います。それでも自分から出来ることを始め発信していけば人種差別を無くすことができるかもしれません。そのために私は、まず第一に自分が差別をしないということを誓いたと思います。